

平成27年度 兵庫県立農業大学校評価シート

【教育目標】

国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等、変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。

【重点目標】

① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保
② 実践的教育の充実・強化
③ 多様な進路に向けた学生指導の充実
④ 学生の自主活動の活性化

【達成度】の基準

A 目標を上回っている

B 目標通り進捗している

C 目標を下回っている

重点目標：① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度
〈 現状 〉 - 平成22年度以降は応募者が概ね定員を超えて推移している。 - オープンキャンパス参加者の多くは入学試験に応募しており、入学生確保の有効な手段となっている。 オープンキャンパスは年間2回開催 - 普通高校卒業者や非農家子弟の入学者の割合が高くなっており、効率的な募集活動の実施が必要となっている。 - 年々、女子学生の割合が高くなっており、在校生74名の内28名（約4割）を占めている。 ----- 〈 課題 〉 - 農業に対する意欲の高い学生の定員確保	オープンキャンパス、高校訪問、イベント、ホームページなど様々な機会を活用して農大の魅力情報を発信し、高校生等に対する農大への関心を高め、入学志望者を増加する。	〈 方策 〉 ○年2回のオープンキャンパス開催とオープンキャンパス以外の個別見学者の積極的受入 ○メリハリをつけた学校訪問(学生募集)の実施 - 農業系高校への幹部職員訪問 - 普通高校への訪問 ○広報活動の推進 - オープンキャンパス開催の記者発表 - 県内高校及び市町、農協、普及センター等に学校パンフ・学生募集ポスターを配布 - 農大収穫祭の開催や県民農林漁業祭等イベントへの参加による情報発信 - 新聞マスコミの活用、県市町広報誌等への掲載 - ホームページの一層の充実 最新の在校生紹介コーナーの新設 更新回数の増加 - 農大教育協力員や同窓会による募集協力の推進 ○高校・進路ガイド会社との連携 - 高校進路ガイダンスへの参加 - 高校進路指導職員との情報交換 - 進路ガイド会社が発刊する広報誌への掲載、進路説明会への積極的参加による情報の提供 - 高校の農大視察の受入協力 ○女子学生増加への対応、寮生活環境の改善 ----- 〈 指標 〉 - オープンキャンパス参加定員確保 - オープンキャンパス参加者へのアンケートで入学希望7割以上 - 高校等進路ガイダンス参加10校（全ての要請校に参加） - 入学応募者数：定員40名以上 - ホームページコンテンツ毎月1回以上更新	○オープンキャンパスの継続実施 - オープンキャンパスの2回開催(8月4日・21日)61名参加（参加者アンケートで8割が農大志望） ○メリハリをつけた学校訪問(学生募集)の実施 - 高校進路ガイダンスで副校長が延べ14校の高校訪問（うち普通科高校3校） ○広報活動の推進 - 学校パンフレット・ポスター及び学生募集要項を作成し、市町・農協・普及センター等関係先へ配布（6月）、農業高校へは訪問説明 - ホームページに学生募集要項を掲載するとともに、トピックスや専攻日誌、夢花菜への出品作物など新しい情報を発信（随時） 更新回数増加：トピックス(5回→28回) 専攻日誌（5回→9回） - オープンキャンパスや、収穫祭を始め、主要行事や就農研修など開催情報を記者発表（16回） - 教育・行政連携推進会議に参加し、農大と各農高の校長が意見交換(12月17日) 新しい農業を目指す高校生等の集いに参加し、農大と各農高の学生が意見交換会（11月12日） - 農大収穫祭の開催（11月21・22日）、県民農林漁業祭（10月17・18日）等イベントへ参加して情報発信 ○H28 応募者数：延べ54名（推薦18、前期28、後期8） 内 女性応募者は延べ11名 〔 H26 応募者：延べ55名、H27 応募者延べ55名〕 ○女性教育専門員配置（女子割合が高い学年を担当） ○女子学生増加に対応する学生寮模様替え、改修工事 安全性向上：女子フロア1階→3階移動 （防犯カメラ設置、707仕切り扉設置） 生活改善：女子風呂改修（収容5名→12名に拡大） 女子トイレ増築：2名→4名（ウォレット化）	- 農業大学校における教育の内容を広く知らしめ、幅広い人材の確保を図ることは今後においても重要であることから、引き続き、効率的、効果的なPRに努める。 特にホームページの利用は、適時に情報提供が出来ることから一層の活用を図る。 （ホームページ内容見直しやリアルタイムの更新、更新回数の増加など充実を図る） - 教育懇談会を開催 学生の進路決定に大きな影響を与える高校進路指導職員の農業に対する理解を得る。 - 高校・進路ガイド会社等と連携し、高校説明会への出席、高校等の農大視察受入を積極的に行う。 - マスメディアの活用による情報発信	【別紙1】	A 目標を上回っている

[別紙 1]

学校評議委員会の意見提言

- ・ 記者発表した回数だけでなく、その結果が新聞等に掲載回数が重要、実際にトピックスや行事を取材してもらい、記事として掲載されて興味を持ってもらうことが農大のPRに繋がる。
- ・ ホームページは週に1回更新しないと見てもらえない。新しくなっていることを期待して見に来る人は更新されていないと次から見なくなるので、更新頻度は非常に大事。
また、QRコード化して高校生や保護者がスマートフォンやタブレットで手軽に見られるよう環境整備が必要。更に学生自身がHP作成に携われるようにすればスキルアップに繋がる。
- ・ 農業高校において非農家の割合が多くなっており、農家の後継者を世襲で選択することが難しくなっている。
農業に興味関心をもつ高校生を如何に惹きつけられるかが大事で、そのためには、高校進路ガイダンスにおいて就農するためのルートを示し説明していくことが農大進学に繋がる。
就農を志す高校生に対し、高卒では雇用就農の求人が少なく、農大に入学する必要があることをもっとアピールするべき。
潜在的に農業に関心を持っている高校生に対し、如何にアプローチし農大進学の実現を促すかが課題である。
- ・ 普通科高校へのアプローチは、他の専門学校と同じ土俵で説明することになるので、農業高校に対するアプローチと手法を変える必要がある。
他の専門学校との違いをどうやってアピールできるかがポイント。一方、農業高校へは具体的な進路を示し、そのためのルートとして農大進学をアピールする必要がある。
- ・ オープンキャンパスの参加希望は多く、参加者は農大に関心があり、当日の体験や学生との交流で農大進学を希望する割合も高い。
新入生もオープンキャンパス参加者が多いので、如何に参加者を確保するかが重要。
- ・ 農大は地域農業後継者育成の使命があり、農業を生業として志す学生に来てもらうべきである。定員を下回っても少数精鋭の方が教育上は良いかもしれない。
農大を知ってもらうために広くPRすることは大事だが、農業に興味があるだけの学生を多く集めても具体的な志を見つけるには農大の2年間は短すぎる。
潜在的に関心がある高校生まで掘り起こしをすることにいささか疑問を感じる。
- ・ 入学者の確保については、コアの部分は覚悟を持った学生が必要であるが、一方で農業高校関係でなく自分で調べてくる優秀な人材もいることから門戸を広げる努力が大事。
そのためには知る人ぞ知る農業大学校ではなく、特に都市部においてももっと知ってもらうようPRを図る必要がある。

重点目標：② 実践的教育の充実・強化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度																																																												
〈 現状 〉 - 普通高校出身者の増加に伴い、入学時に学生間の農業に関する知識・技術の格差が拡大している。 - 教育目標・方針に沿ったカリキュラム編成を毎年見直している。 - 実習を重視した実践的な教育を行っているが、キャリア教育が不十分 - 資格の積極的な取得を奨励しており、主要な資格には担当職員を充てて濃密な指導を行っている。また、大型特殊自動車運転免許や家畜人工授精師等は授業に組み込んでいる。 ----- 〈 課題 〉 - 農業の基礎学力の充実と学生の技能・知識の向上 - 教育目標・方針に基づく実践的な農業教育の実施 - 専修学校として特色ある学校づくりを推進 - 卒業論文課題研究の中に経営的な視点を入れ、厳しい農業情勢の中にたくましく発展的な農業経営を続けるノウハウや信念を養成する必要がある。	農 業 の 基 礎 的 ・ 基 本 的 知 識 を 確 実 に 習 得 さ せ 学 力 向 上 を 図 る。 資 格 試 験 ・ 検 定 試 験 の チ ャ レ ン ジ 、 合 格 率 向 上	〈 方 策 〉 - 基礎学力向上への取組：1 学年末には農業に必要な計算、文書読解、文書作成を履修 - カリキュラム編成委員会の設置、委員会による教育課程の編成 - 実習計画の十分な検討、計画に基づく実習実施 - キャリア教育を実施（コミュニケーション能力、ペン習字、ビジネスマナー教育） - 農大職員及び、農林水産技術センター研究員の担当する講義科目について、学生にアンケートを実施し、結果を講師毎にフィードバックする。講師は結果を講義改善につなげる。 - 多くの機会を捉え資格取得を奨励する。 - 直売施設（夢花菜）や県民農林漁業祭、収穫祭等での販売体験を通じて、原価計算や経営管理能力を養う。 ----- 〈 指 標 〉 資格・検定試験の合格者・合格割合の目標 - 大型特殊免許（農耕）：卒業生全員合格 - 農業機械利用技能者：7 割合格 - 指導農業機械利用技能者：5 割合格 - 毒劇物取扱責任者：5 名以上合格 - 危険物取扱者：10 名以上合格 - 農業技術検定3 級： 全員合格 2 級： 7 割合格 1 級： 1 名以上合格 - 家畜人工授精師：畜産課程全員合格 - フォークリフト、アーク・ガス溶接、小型車両建機：全員合格 - 全国プロジェクト発表会での発表、上位入賞 - 懸賞論文応募：5 名以上 ※ 過去の受検・合格状況から目標値を設定	○情勢変化や就業ニーズに即したカリキュラム見直し〔新規取り組み〕 →1 年生インターンシップ 10/21～23、J A 等出資の 8 農業法人で派遣研修 →非農家子弟、普通高出身者の基礎知識・技術の向上 農業基礎、農業実技基礎Ⅰ・Ⅱで 148 時間の授業・演習を割り当て知識・技術習得 →食品衛生、生産工程管理演習 ○先端技術を学ぶための施設整備 →イチゴ自動灌水システム、トマト施設栽培の環境制御システム、トマト・花きの光利用病害防除システムなど最新設備をを導入 ○就農チャレンジ研修では、有機農業と 6 次産業化に関する新たな研修コースを開設 ○学業等奨励制度による学生のモチベーション向上 - 知事賞、校長賞授与：成績、学習態度が優秀な学生 - 同窓会長賞：欠席、遅刻等がない勤勉な学生 - 各種資格免許取得者表彰：同窓会の学生支援活動の一環で、資格免許取得奨励事業に取り組み、取得数が多い学生を表彰（卒業式に会長から褒賞授与） ○農大直売施設（夢花菜：毎週金曜日開設）を始め、県民農林漁業祭への出店（10/17. 18）や、農大収穫祭（11/21. 22）において野菜、花き、果物等の販売実習 H27 卒業生の資格・免許取得実績 <table><tr><th>資格・免許 名称</th><th>受験 者数</th><th>合格 者数</th><th>合格 率</th></tr><tr><td>大型特殊免許(農耕)</td><td>35</td><td>35</td><td>100</td></tr><tr><td>農業機械利用技能者</td><td>22</td><td>19</td><td>86</td></tr><tr><td>指導農業機械利用技能者</td><td>6</td><td>3</td><td>50</td></tr><tr><td>毒劇物取扱責任者</td><td>5</td><td>3</td><td>60</td></tr><tr><td>危険物取扱者</td><td>14</td><td>12</td><td>86</td></tr><tr><td>農業技術検定 3 級</td><td>21</td><td>21</td><td>100</td></tr><tr><td>2 級</td><td>13</td><td>10</td><td>77</td></tr><tr><td>1 級</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>家畜人工授精師</td><td>11</td><td>11</td><td>100</td></tr><tr><td>フォークリフト</td><td>26</td><td>26</td><td>100</td></tr><tr><td>アーク・ガス溶接</td><td>21</td><td>21</td><td>100</td></tr><tr><td>小型車両建機</td><td>22</td><td>22</td><td>100</td></tr><tr><td>全国発表会での発表</td><td colspan="3">1 名、優良賞</td></tr><tr><td>懸賞論文応募</td><td colspan="3">延べ 8 名</td></tr></table>	資格・免許 名称	受験 者数	合格 者数	合格 率	大型特殊免許(農耕)	35	35	100	農業機械利用技能者	22	19	86	指導農業機械利用技能者	6	3	50	毒劇物取扱責任者	5	3	60	危険物取扱者	14	12	86	農業技術検定 3 級	21	21	100	2 級	13	10	77	1 級	3	0	0	家畜人工授精師	11	11	100	フォークリフト	26	26	100	アーク・ガス溶接	21	21	100	小型車両建機	22	22	100	全国発表会での発表	1 名、優良賞			懸賞論文応募	延べ 8 名			- 農業技術・知識の習得のため、引き続き各種資格取得に向けた支援や意識付けを行うとともに、学生の意欲や習熟度を考慮した実践学習の充実を図る。 - 特色ある学校づくりを推進するため、農業の 6 次産業化や有機農業を含めた環境に配慮した農業などの知識や技術の習得を目指す。 →農産物加工施設の整備（トマトチップ・ピュレ、ジャム等） →東洋食品工業短期大学との連携により 6 次産業化カリキュラムを新設（講師相互派遣、学生交流） - 学生の進路に対する意識を高め、個々の能力にあわせた情報提供や個別指導を行う。 - ハローワークや人材育成会社と連携したキャリア教育を推進する。 - 職業教育において外部意見を集約・活用する - 牛舎移転整備 現行牛舎より近い立地で、かつ広い牛舎となるため、実習の利便性と学生の安全性が向上 - 研修棟宿泊室改修 利用者の利便性向上に繋がる宿泊室、トイレ等の改修 - インターネット接続環境整備（無線 LAN） - 刈払（草刈）機取扱作業者特別教育の受講新設	- 農業には生産から 6 次産業化まで多様な面があり、農業経営には間口の広い技術や能力・知識が必要であるが、全て習得するのは困難であるため、人脈を広げること、常に新しい知識技術を学ぶことが重要である。 1 年次に比べて 2 年次では学生の自主性を重視した実習をもっと充実させるよう変更してはどうか。 - 学生間の能力の差が大きく、任せられる学生もいればそうでない学生もいるのが現状である。学生に応じたきめ細やかな対応ができれば良いが現実には難しい。 - 雇用就農先からは、トラクターで田圃が鋤ける、刈払い機で草刈りができる程度の実践力が求められるが、農大には学生が自由に鋤きこむ練習ができるだけのトラクター台数がないなど設備が不足している。 また、トラクターの免許は取得していても実際ロータリーで攪拌する訓練が不足している。 2 年次に就農組と就職組の班分けを行い、就農組は毎日一定の時間は草刈りやトラクター実務などの実習をしてはどうか。 - インターネットの接続環境整備は、栽培情報の見える化や農業基礎用語の理解など、ICT 化を進める上で有効に活用できる。 - 評価指標は資格検定試験の合格だけではなく、実施した各種取組について評価指標を設定し、その達成度を評価するべき。	B 目 標 通 り 進 捗 し て い る
資格・免許 名称	受験 者数	合格 者数	合格 率																																																															
大型特殊免許(農耕)	35	35	100																																																															
農業機械利用技能者	22	19	86																																																															
指導農業機械利用技能者	6	3	50																																																															
毒劇物取扱責任者	5	3	60																																																															
危険物取扱者	14	12	86																																																															
農業技術検定 3 級	21	21	100																																																															
2 級	13	10	77																																																															
1 級	3	0	0																																																															
家畜人工授精師	11	11	100																																																															
フォークリフト	26	26	100																																																															
アーク・ガス溶接	21	21	100																																																															
小型車両建機	22	22	100																																																															
全国発表会での発表	1 名、優良賞																																																																	
懸賞論文応募	延べ 8 名																																																																	

重点目標：③ 多様な進路に向けた学生指導の充実

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度																																					
〈 現状 〉 - 法律に基づく無料職業紹介事業により、進路担当者を定め、個々の学生に対する就職相談・指導に取り組んでいる。 - 非農家出身で生産基盤を持たない学生が増加しており、就農の形態も自営就農だけではなく、農業法人等への雇用就農が増加している。 - 直近5年間（H22～H26）の進路決定率は98％であり、就農は39％、就職は51％（うち農業関連産業等は42％）で、進学率は8％である。	きめ細かい進路指導、進路希望や活動状況の把握、進路決定のための情報提供 卒業後の多様な進路に対応できる進路指導	〈 方策 〉 ○就職支援活動の強化 - 個人面談を年3回以上実施 - 面接・マナー講座を開催 - 個人情報ファイルの作成、職員の情報共有 - 就農希望者への特別教育の実施 - 青年就農給付金関係の説明会、相談会の開催 - 農業関連企業志望者への特別教育の実施 - 学生からの希望に応じたハローワーク等からの求人情報の収集と、模擬面接会等への参加を推進する。 - 農業法人を含む就職対策の取り組み強化	2年生インターンシップ 原則9～10月、先導的農家へ40日間の派遣研修 1年生インターンシップ（再掲） 10/21～23、JA等出資の8農業法人で派遣研修 - 農業界（卒業生就職先）向けアンケート調査実施（2月） - 個人面談実施 校長1回、就職担当2回、その他専攻・担任による面接を随時実施 - 面接・マナー講座開催 採用試験前の面接練習を随時実施 - 個人ファイルの作成と職員の情報共有 求人者管理票及び求職者管理票を作成し、学生への就職紹介と合否について進行管理。月1回の職員会議や随時開催の教務会議等で職員間の情報共有 - 県農業担い手協議会、各農業改良普及センターと連携した新規就農希望者へのサポート 27年度卒業生の進路内定（28年3月現在） 単位：人 <table><tr><th colspan="2">卒業生</th><th>35</th><th colspan="2">内訳</th></tr><tr><td rowspan="2">就農</td><td>自営</td><td>4</td><td>12</td><td rowspan="2">34 (97%)</td></tr><tr><td>農業法人雇用</td><td>8</td><td>(34%)</td></tr><tr><td rowspan="4">就職</td><td>農協等団体</td><td>14</td><td>22</td><td rowspan="4">1 (3%)</td></tr><tr><td>農業関連産業</td><td>6</td><td>(63%)</td></tr><tr><td>公務員</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>その他産業</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">進 学 等</td><td>0</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="2">未 定</td><td>1</td><td>(3%)</td><td></td></tr></table> ※ 進路決定率：97% 就農率：34% 農業関連：97%	卒業生		35	内訳		就農	自営	4	12	34 (97%)	農業法人雇用	8	(34%)	就職	農協等団体	14	22	1 (3%)	農業関連産業	6	(63%)	公務員	2		その他産業	0		進 学 等		0			未 定		1	(3%)		2年生を対象にした農家派遣研修、1年生を対象にした農業法人への派遣研修などインターンシップは継続実施 - 農大を会場とした求人企業の合同説明会を新たに開催 - 農業生産法人協会と連携した就職相談会の開催 - ハローワーク支援員と連携した就職セミナー開催	- 農業経営を自分で行えるレベルまでもう少し学生を教育してほしい。 - 卒業生の進路先を具体名でホームページに公表すれば、農大進学志望の方にわかりやすい。採用企業側は学校名を公表しており、企業名を公表するのは特に問題はない。 - 農協等に就職して営農指導に携わる卒業生が増えていることはいいことである。 - 卒業後に4年生大学に編入進学を目指す学生には、特別なサポートをして合格率を向上すべきである。	A 目標を上回っている
卒業生		35	内訳																																								
就農	自営	4	12	34 (97%)																																							
	農業法人雇用	8	(34%)																																								
就職	農協等団体	14	22	1 (3%)																																							
	農業関連産業	6	(63%)																																								
	公務員	2																																									
	その他産業	0																																									
進 学 等		0																																									
未 定		1	(3%)																																								

重点目標：④ 学生の自主活動の活性化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度
〈 現状 〉 - 本校は全寮制であるため震災や火災発生時の学生の安全性確保を万全にする必要がある。 - 寮内の整理整頓が不十分であり改善の余地がある。 - 収穫祭や東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会等の行事運営が、学生の自主的な活動で実施されていない。 - 学生間のトラブル等による学生処分事案が年数件発生する	危機管理マニュアルの更新 学生生活環境の整備改善 社会規範意識を高め、基本的生活習慣の適正化	〈 方策 〉 - 震災、火災時の対応に役立つ防災訓練を消防署の協力のもと実施 - 交通、防犯、防災講座を通じ社会的ルールの遵守 - 寮生活（自治会活動）を通して社会人としての心構えを学ぶ 講義受講態度、実習取り組み態度 自動車等使用許可、防犯・防災意識 健全な寮生活 - 食育講座開催 給食委員会の開催（アンケート、学生集会） - 学生自ら企画運営する農大収穫祭において販売実習を実施（再掲）	- 地震・火災等の災害時の危機管理マニュアル見直しを実施 - 消防署の協力により学生及び職員参加による避難訓練と消火訓練（5月）、救急救命訓練（2月）を実施 警察署の協力により、交通安全講習会（4月、7月、12月）実施 - 校舎及び寮内での喫煙場所や、寮談話室の夜間使用時間の制限など、学生自治会の自主的ルール化を誘引 寮生活における遵守事項や連絡確認のための自治会集会を開催し、寮内で発生した問題を話し合った。 - 地元自治会との学校周辺環境美化作業（5/20）や校内環境整備活動を毎月（年間 12 回）実施し、校舎・寮に対する美化意識を醸成 担当職員による寮内環境の定期的な点検、改善指導の実施 - 規則違反や問題行動をとる学生に対し、その都度教務会議で対応を協議、担当職員で情報を共有化し、指導の一体化を図った。 また、問題のある学生に対して個別指導を行い、反省と改善を促した。 - 学校行事（スポーツ大会、農大収穫祭等）を通して、学生間の仲間づくりを進めた。 沖縄農大訪問（10/29） 奈良農大学生との交流（11/21） - 寮の補修箇所の早期発見と補修の実施（網戸改修） - 食育講座、給食検討委員会開催（2月） - 女子学生増加に対応する学生寮模様替え、改修工事（再掲） 安全性向上：女子フロア 1 階→3 階移動 （防犯カメラ設置、ドア仕切り扉設置） 生活改善：女子風呂改修（収容 5 名→12 名拡大） 女子トイレ増築：2 名→4 名（ウォシュレット化）	- 学校周辺の環境整備等のボランティア活動拡充 - 地元自治会活動、イベントへの学生自治会としての積極的参加 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現 - 学生の自主活動推進のため外部機関による研修等の実施 - 引き続き学生が企画運営する販売実習を継続し、加工品など販売品目の充実を検討 - 登山やスケート等のレクレーション要素を新たに取り入れ、学生の団結力を一層強化 - インターネット接続環境整備（無線 LAN）（再掲）	- 収穫祭やスポーツ大会等の運営は、まず学生が企画委員会を組織し素案やアイデアを出し、農大側と相談しながら進めていくことが望ましいが、いきなり学生主導で行うことが困難な場合は、過去事例資料の提供など学校側からフォローも必要。 - 新たに登山やスケート等の行事を取り入れることは学生の一体感が醸成されてよいことである。 - 他県の農大や農業高校への調査研究や学生交流を行うことは刺激になり意義がある。 - 農大敷地内の環境整備は、定期行事として実施しているが、寮内の環境整備（大掃除）については、学生自治会の自主活動として取り組むべき。	B 目 標 通 り 進 捗 し て い る
〈 課題 〉 - 危機管理体制の構築 - 学生生活指導の充実改善 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現		〈 指標 〉 - 学生活動の年間スケジュールによる計画的執行 - 寮の環境美化と快適な寮生活の実現				